

78 CBSグループ (姫路市) 技術設計サービス

〈データ〉CBSは「クリエイティブ・ビジネス・サポート」の略。グループは姫建機材と子会社5社で構成。2023年5月期のグループ売上高は約12億円。井上学氏は阪大工学部卒。ミノルタ(現コニカミノルタ)を経て1998年から姫建機材社長。

次の一手

〜激動の中で 兵庫の企業〜

社業を象徴する場所は「」。記者が問うと、井上学・最高経営責任者(CEO)は即答した。「ベトナムですね」。神戸の自宅からホーチミンに指示を飛ばす。1年間のうち3分の1は現地で過ごすという。グループの中核は建設仮設機材(足場)レンタルの姫建機材(姫路市)。父が1975年に設立した。

ベトナムで信頼勝ち取り 世界を射程に。

井上氏は98年に社長に就任した。もともと縁々つもりはなく、大手メーカーでカメラの開発に従事していた。しかし父が事故で急逝。後継社長となり「技術者出身として、MOI(技術経営)で発展させる」と決めた。建物の改修や測量など新事業の種をまく中で、ベトナムと出合った。

2001年、経営者仲間と観光で初めて訪れた。行きは機内で、メンバーの一人が「ベトナムで車いすが

自宅からベトナム子会社へオンラインで連絡する井上学氏。画面右の女性ランさんは現地ガイドから子会社社長となり、現在は副会長を務める＝神戸市東灘区



足りない」という記事を自にした。急ぎよ、福祉施設の視察を旅程に加えた。施設はとも粗末だった。障害のある孤児が共同生活する小屋を訪れると、女の子がミシンで人形を作り、20人の生計を支えていた。「おじさんたちが、いい建物を建ててあげる」。そう約束して帰った。

井上氏が現地調整役となり、毎月ベトナムに通った。「安宿に泊まり、汚い格好で走り回る」姿が賛同を集め、ネットメディアで取り上げられた。現地の若手有力者も、ともに汗を流す仲間となった。言語を覚え、コミュニケーションに分け入った。国情に通じた井上氏は、将来の発展を確信。05年に現地法人を設立した。日本向けの足場設計から始め、日系企業向けの機械や建設の設計も担うように。現地での建築施工や教

育、人材派遣も手かけ、今ではベトナムでの事業がグループ売上高の過半を占める。ホーチミン市工科大と共同運営する専門学校からは年500人を輩出し、CBSは同国の業界で名の通る存在となった。今後、ベトナムを「ハブ」に次の国を狙う。「内向き日本よりもベトナムからの方が向いている」。年内にも米国に事業展開する考えだ。子どもたちの約束は、2秒に十数棟が並ぶ職業訓練施設として実現した。車いすも寄贈。現地ガイドだった女性は子会社社長(現副会長)として活躍する。「若者と理士系が多いのがビジネス面のベトナムの魅力。そして私が出会った人は、いい人ばかり」。ほれ込んだ地から、さらに視野を自指す。(広岡磨瑠) ◇原則、毎週木曜に掲載します。



ベトナム・ホーチミンにある子会社「CBSベトナム」の社員ら(CBSグループ提供)